

# 家族の変化と 新しい時代のケアを 考える

2016年

12月10日(土)

13:00~16:30

(12:30 開場)

## 会場

日本女子大学 目白キャンパス  
新泉山館 大会議室  
東京都文京区目白台1丁目19-10

入場無料(定員80名・先着順)

## 第1部

### 基調講演

「介護する人(ケアラー)に社会的支援を」

堀越 栄子

(日本女子大学家政学部 教授)

### パネリスト講演

「在宅での家族介護の負担」

菊澤 佐江子

(法政大学社会学部 准教授)

「ヤングケアラーとして見えたこと」

井手 大喜

(草加市議会議員、ケアラー)

「広がるダブルケアにどう向き合う？」

佐塚 玲子

(特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター  
センター長)

「<sup>みかた</sup>男性性とケア—おとこの看方とその見方」

平山 亮

(東京都健康長寿医療センター研究所 研究員)

## 第2部

### 全体討論

コーディネーター：大沢 真知子

(日本女子大学現代女性キャリア研究所 所長)

## アクセス

JR山手線 目白駅(バス5分・徒歩18分)  
副都心線 雑司が谷駅(徒歩8分)  
有楽町線 護国寺駅(徒歩10分)



## お申し込み方法

Webサイト『こくちーず』より  
お申込みください。

QRコードからもお申込み頂けます。

URL: <http://kokucheese.com/event/index/433425>



## お問い合わせ先

日本女子大学 現代女性キャリア研究所

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

電話 03-5981-3380 (平日10:00-17:00)

FAX 03-5981-3381

E-mail [riwac@fc.jwu.ac.jp](mailto:riwac@fc.jwu.ac.jp)



# プロフィール

## 堀越 栄子 日本女子大学家政学部 教授

日本女子大学家政学部家政経済学科教授として教育研究に携わるとともに、「NPO 法人さいたまNPO センター」副代表理事や「(一社) 日本ケアラー連盟」代表理事、自治体の高齢者福祉サービスや介護保険、公共サービスに関わる委員会の委員等をつとめ、生活と社会をつなぐ実践をしている。とくにケアラー支援や市民活動支援、自治などの市民生活の基盤に関わる課題を市民自身の手で社会的に解決するための活動を大事にしている。



## 菊澤 佐江子 法政大学社会学部 准教授

米国インディアナ大学ブルーミントン校大学院博士課程修了。Ph.D. (社会学)。淑徳大学社会学部専任講師、奈良女子大学生活環境学部准教授を経て、現在、法政大学社会学部准教授。専門は社会学 (家族、福祉、メンタルヘルス)。著書に『心の病へのまなざしとスティグマ』(明石書店) など。



## 井手 大喜 草加市議会議員、ケアラー

16歳の時に父親が脳梗塞で倒れ、以後、在宅での医療、介護のケア生活に突入。足立学園高等学校、明治大学卒業の翌年、自宅で行政書士事務所を開業し、在宅介護の継続を選択。25歳の時に、草加市議会議員選挙にて介護者支援の必要性を訴え、初当選。現在2期目。市議会では、福祉子ども委員会委員長として活動中。



## 佐塚 玲子 特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター センター長

横浜市内の地域ケアプラザに10年間、介護保険制度施行前後の福祉現場に勤務。その後、横浜市中間支援NPOに8年間勤務し、福祉に携わる市民・専門職の人材育成事業を行う。4年前より現職。自身もトリプルケア実行中。



## 平山 亮 東京都健康長寿医療センター研究所 研究員

オレゴン州立大学大学院博士課程修了。公益財団法人長寿科学振興財団リサーチ・レジデント、日本学術振興会特別研究員を経て現職。著書に『迫りくる「息子介護」の時代』(光文社)、『きょうだいリスク』(朝日新聞出版) など。



## 大沢 真知子 日本女子大学人間社会学部教授 兼 現代女性キャリア研究所 所長

南イリノイ大学経済学部博士課程修了。Ph.D (経済学)。コロンビア大学社会科学センター研究員、シカゴ大学ヒューレット・フェロー、ミシガン大学ディアボーン校助教授、亜細亜大学助教授、教授を経て、現職。専門は労働経済学。内閣府「仕事と生活の調和連携推進評価部会」委員。東京都女性活躍推進会議専門委員。



## 主催

**家計経済研究所**—公益財団法人家計経済研究所は、家計や生活の実態と将来について調査研究を進めている調査機関です。「在宅介護のお金と負担」調査などを行っています。

**現代女性キャリア研究所**—現代女性キャリア研究所は、「現代女性の生き方」に関する問題点を調査研究し、その成果に基づいた提言を広く社会に発信しています。